

ノーベル平和賞を核時代80年につなぐ

日本被団協代表理事 田中聰司

1. 初めに 「核時代 80 年」の共通認識を「人類はみんなヒバクシャに？」
2. 私と家族の被爆体験
 - (1) 1歳5カ月の時、母に連れられ、家族を探して入市被爆。祖父母ら4人直爆死。
 - (2) 幼少期—「空腹の 10 年」 難民の子としてミルク給食
原爆孤児と暴力団の街(社会的被害)
 - (3) 青年期—東京に出て差別感→「被爆者」を隠す生活に
 - (4) 壮年期—6つのがんなど—**半世紀たって原爆症と判明**
 - (5) 家族・親族15人が被爆—現在まで11人死亡、1人行方不明、生存者は3人に
3. 原爆被害の特性 (別表 2 つ)
 - (1) 現在～未来へ続く被害 **◎ヒロシマの出来事は昔話ではない**
 - (2) 人類全滅の警鐘—第1回広島市平和宣言(1947 年)でも
4. 新聞記者になって
 - (1) 被爆者たちと喜怒哀楽を共に—小頭症患者、ある青年の自殺…
 - (2) 政治の貧困、欺瞞、不公正→佐藤首相のノーベル平和賞に批判記事
 - (3) 非核3原則の法制化→憲法に非核条項を設けよ(社説で)
5. 「被団協」を知って
 - (1) 運動理念(別表)と活動力に感銘
 - ◇「自らを救うとともに人類の危機を救おうと決意」(1956 年 結成宣言)
 - ◇「私たちと同じ体験を他の人にさせてはならない」 →被爆者援護(核被害者援護)と核廃絶(核絶対否定)の2大理念
 - ◇「人類史を塗り替えよう」→「核権力社会」を「人間社会」に
 - (2) 「被爆者」を隠す了見の狭さを反省→ 「核時代を生きる指針」に
 - (3) 50 年史の編集で入会、お世話活動 学習会 証言活動など
6. やっとできた核兵器禁止条約
 - (1) 署名は95カ国に、批准は74カ国に。
7. それでも核リスクは極限に
 - (1) 核保有国は2ヶタへ、1万発余の核兵器、やまない核保有国の戦争、国連も機能不全 **◎「終末時計」は89秒に(戦後最短)→「人類全滅の警告」通りに**

8. ノーベル平和賞を受けて — その意義と「核時代 80 年」に生かす課題

(1) 先人の足跡に、あらためて学ぶ

◇「核のタブー」確立—「核絶対否定」(原発も含めた)運動理念の普遍化を

(2) 支援あればこそ—◇原水爆禁止運動 ◇労働運動 ◇市民運動・NGO

(3) 「平和への希望に尽力した全ての被爆者」の受賞と認識

(4) 「被爆者の声を聴こう」は瀬戸際の呼びかけ、**危機意識の薄さに警鐘**

—被爆者の余命の心配よりも皆さんの残り時間89秒の心配をしよう

(5) 「世界被団協」構想の具体化へ

◇世界の核被害者の連携、援護にノウハウ提供を→核禁条約への参加へ

(6) 「喜び半分」悔しさ・怒り半分—被爆国の「恥ずかしい姿」が浮き彫りに

◇授賞の意義を汲めない日本政府 核兵器禁止条約にそっぽ。

◇「出口」論のうそ。この条約こそ、核軍縮の「入口」

◇国際社会に恥ずかしくない平和国家めざそう—署名、要請の行動を

(7) 喫緊、最大の課題は「**核大国を動かす**」取り組み

◇オスロの反核団体と行動協議(昨年12月) ◇フランス・マクロン大統領に

停戦・軍縮の橋渡し役を要望(5月)◇国連で核大国首脳に面談要請(9月)

◇「89秒を逆戻りさせる」協働行動の協議(10月、シカゴ)◇トランプ米大統領の

核実験指示に日米共同の抗議声明→米国で署名運動へ(11月、シカゴ)

(8) 忘れていた科学者の責任追及、平和研究の要請 (5月、モンペリエ大)

(9) 原爆投下の加害責任を問う取り組みを再び

◇被爆者と米平和団体が米政府に謝罪を求める共同声明(昨年4月)~要請行

動の協議(9月、ニューヨーク)→核の不使用~廃絶へつなげる必須要件

(10) 「国家補償」の見直しを

◇田中代表委員演説—死没者放置—今の戦争犠牲者への問いかけ

◇「受忍論」のまやか—軍人、被爆者、一般戦災者の援護の差別、憲法違反

◇米国の被爆者援護責任の確定(核禁条約6条)→援護法との整合性を

(11) ヒロシマ・ナガサキへの関心高まる ヒダンキョウの注目度も

(12) **被爆者運動は思想、信条、宗教、国境を超えた「人道主義」**

(13) 「脱核」へ知恵を集め、立ち上がる力を!

原爆の被爆者・被害者

[直後の死没者](原爆投下の1945年末まで 国連報告書)

◇14万人± α (広島) ◇7万人± α (長崎)

<計> 21万人± α

◎原爆犠牲者はこれだけではない

[原爆死没者名簿](2025年8月5日まで)

◇34万9246人(広島) ◇20万1942人(長崎)

<計> 55万1188人

[現在までの死者](2025年8月5日まで)

◇38万4千人± α (広島) ◇21万7千人± α (長崎)

<計> **60万人± α** (原爆供養塔、在外被爆者などから推定)

[被爆者健康手帳の所持者] 生存被爆者数(2025年3月末)

9万9130人<ピークは37万2264人(1980年度末)>

[まだ続く手帳の申請・取得]

◇この3年間で4666人(広島)。

「黒い雨」が4626人、**その他が40人**

[被爆者に適用されない原爆被害者]

◇被爆体験者(長崎)

◇被爆者の遺族—配偶者、**原爆孤児**など二世、三世、四世

◎遺伝的影響の「有無は言えない」—日米共同研究が続行

◎原爆被害は「**現在**」「**未来**」へ続く問題＝核時代マター

◎**ヒロシマ・ナガサキ**は「**昔話**」ではない

原爆被害とは—9つの特質

- ①核兵器の発明、初の使用—核時代の始まり
- ②放射線（放射能）の被害—永続性、遺伝性
- ③放射線、熱線、爆風の複合被害—残虐性
- ④皆殺し（ジェノサイド）—無差別性
- ⑤生物抹消（バイオサイド）—全面性
- ⑥環境破壊（エコサイド）
- ⑦地域社会の壊滅（ソシオサイド）
- ⑧地峡破滅（アースサイド）への始まり
—終末時計
- ⑨人類絶滅（ヒューマンサイド）の警告
—◎第1回平和宣言（1947年8月6日）

<参考文献>「広島・長崎の原爆災害」など

被団協の運動理念

○「自らを救うとともに人類の危機を救おう」(1956年結成宣言「世界への挨拶」)

自立しよう→核兵器の廃絶

○「私たちと同じ体験を他の人にさせてはならない」

再びヒバクシャをつくるな→核被害者の救済・援護
→戦争を止めよ 「核絶対否定」「人類と核は共存できない」

○「組織なくして運動なし」

○「世界被団協をつくろう」

○「庶民の歴史をつくろう」「人類史を塗り替えよう」

「核権力社会」を「人間社会」に変えよう

●「まどうてくれ」(元通りにせよ)

「人間を返せ」→「人間らしく生きる」社会を
→被爆者運動は、思想・信条・宗教・国境を越えた
ヒューマニズム(人道主義)